

地域活性化起業人の活動内容をお届け!

南伊勢町

行ったり来たり



地域活性化起業人 岡田 侑子

7月の活動をお伝えします。

こんにちは。地域活性化起業人の岡田です。みなさん、「関係人口」という言葉をご存知ですか？地域に住む定住人口でもなく、単発で観光に訪れる交流人口でもなく、“都市に住みながら、特定の地域と多様な関わり方をする人”のことをいいます。私はその関係人口を増やす・深める活動をしています。

とはいえ、“地域と多様な関わり方”ってなんぞや？と思いますよね。さすがに、定義がふわっとしすぎている。

たとえば、私と南伊勢は、月に1度通う関係性。“二拠点生活”というカタチの「関係人口」です。今は、町に二拠点生活者を増やすプロジェクトにも混ぜてもらっています。

はたまた、この間、東京・日本橋のアンテナショップ「三重テラス」では、南伊勢町の関係人口向けのイベントを行いました。そこには、南伊勢で活動する学生の団体「南伊勢の扉」のメンバーや、道行籠の日本酒作りに携わる東大生、友栄水産でインターンをした大学生、ふるさとワーホリに参加した人たちなどが集まってくれました。

南伊勢に1回訪れただけでなく、東京で「南伊勢」を共通言語としたイベントにも集まってくれる。そう考えると、関係人口は「継続して地域と関わる意思がある」というのが、一つのポイントかもしれないですね。



そしてこの夏は、アサヒ農園さんと一緒に、みかんの収穫を手伝ってくれる人たちを地域外から募っています。20日ほどの間に、8人ほどの若者が入れ替わり立ち替わり来てくれています。

南伊勢での暮らしの満足度は高かったようで、「あと1週間滞在を延ばそうかな」「就職したら、三重支社に志望出そうかな」という声まで。

今後は、アサヒ農園さんだけでなく、他の事業者さんとも協力して、地域の労働力不足に少しでも貢献できたらいいなと思っています。これもまた、関係人口のひとつのカタチと言えますが、関係人口のもうひとつのポイントには、「地域に貢献してくれる」というのも挙げられるかもしれません。



日本全体の人口が減少するなか、すべての地域で移住者を増やすということは物理的に難しいです。そうした状況を打破するために、石破内閣では、10年後には関係人口を1,000万人にするという目標を掲げています。南伊勢町も、その波に乗っていったらと思いながら、これからも地域を楽しむ仲間を増やしていきます！

次回は11月号に掲載予定です

問い合わせ先

まちづくり推進課 政策係
☎0599-66-1366